

Heroldo de HEL

N-ro 125

Majo 2009

HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO

北海道エスペラント連盟

de HOŜIDA Acuŝi

〒053-0844 苫小牧市

Miyanomori 2-18-18, TOMAKOMAI

宮の森町2丁目18-18

053-0844 JAPANIO

星田 淳 方

TEL-FAKS:0144-74-2539

Retadreso:hosidaacusi@kir.biglobe.ne.jp

Postgirkonto (郵便振替) : 02700-6-17075

*Sekretario: KAWAI Yuka

*事務局: 川合由香

N-ro 45, Simin-Katudó-Sapóto-Senta

〒060-0808 札幌市北区

Sapporo L-Plaza 2F, Kita 8 Nisi 3

北8条西3丁目札幌エルプラザ

Kita-ku, Sapporo, 060-0808 Japanio

市民活動サポートセンター レターケースNo.45

TEL-FAKS : 0126-62-4636

Retadreso : nordano@sea.plala.or.jp

*TTT-ejo : <http://www5d.biglobe.ne.jp/~hel/jp/index-j.htm>

[Enhavo/目次]

- 表紙、Enhavo/目次 P. 1
- Fru-somera Kunlogado en Hokkajdo/北海道初夏エスペラント P. 2
合宿のご案内/北海道エスペラント連盟研究教育部
- Ĉu interpretado estas malfacila? /通訳は難しいか? P. 4
KABAYAMA Yosuke /樺山 裕介
- Nomo kontraŭ la plej grava gramatiko de Esperanto P. 6
「16条の基本文法」違反/樺山 裕介 KABAYAMA Yosuke
- Aldono de la Redaktanto /編集追記 (HOŜIDA Acuŝi) P.10
- Danke ricevitaj - 受領郵便物- P.11
- Lago Maŝuu en nebulo/「霧の摩周湖」について P.13
SAKAŜITA Masajuki/坂下正幸
- Komento pri sekva paĝo(La Poemo)/La red. P.14
- La Poemo(Ĉefa vojo al Harmonio/ 調和への王道) /CHUNG Hwangun P.15
- [第5回委員会報告] Protokolo de la 5-a Komitato Kunsido P.19
- [編集後記/Redaktanto parolas ...] P.20

Fru-somera Kunlogado en Hokkajdo

北海道初夏エスペラント合宿のご案内

北海道エスペラント連盟研究教育部

今年も苫小牧の柴田さんのご好意により、札幌の柴田内科循環器科研修センターをお借りして、合宿を開催する運びとなりましたので下記の通りご案内申し上げます。

記

名称：北海道初夏エスペラント合宿

主催：北海道エスペラント連盟

場所：札幌市西区西野1条7丁目 柴田内科循環器科センター

交通：地下鉄東西線宮の沢駅下車、5番出口を出て「西友」「ちえりあ」前を過ぎ直進、左側の「ローソン」の前の角を左に曲がって進むとやがて右側に研修センターの看板が見えてきます。宮の沢駅から徒歩10分程です。

期間：6月27日(土) 13時～28日(日) 12時

内容：入門コース(初めてエスペラントを習う方) 講師：星田 淳

中級会話コース(エスペラント文法をほぼ完全に習得されている方)

講師：椿 正一

他、参加者の人数や学習到達度も考慮して、入門コースと中級会話コースの中間にあたるコース、初級会話コース(仮称)も用意しております。

日程：6月27日(土)

13:00から13:30受付

13:30合宿についての説明後、直ちにコースに分かれて学習開始

17:30学習会第一部の終了

* 但し、参加者の希望により適時休憩を挟みます。

18:00夕食

19:00学習会第二部の開始

20:30学習会第二部の終了

以後は自由時間です。

6月28日(日)

7:30朝食

8:30学習会第三部の開始

11:30学習会第三部の終了と感想並びに意見交換

12:00全日程終了、解散

参加費：宿泊費（27日の夕食と29日の朝食込み）1500円

受講料・資料代1000円

申し込み：

川合由香（北海道エスペラント連盟事務局長）

072-0016美唄市東5条南5丁目2-21

Tel./Fax: 0126-62-4636

E-mail: nordano@sea.plala.or.jp

または、

椿 正一（連盟教育研究部担当）

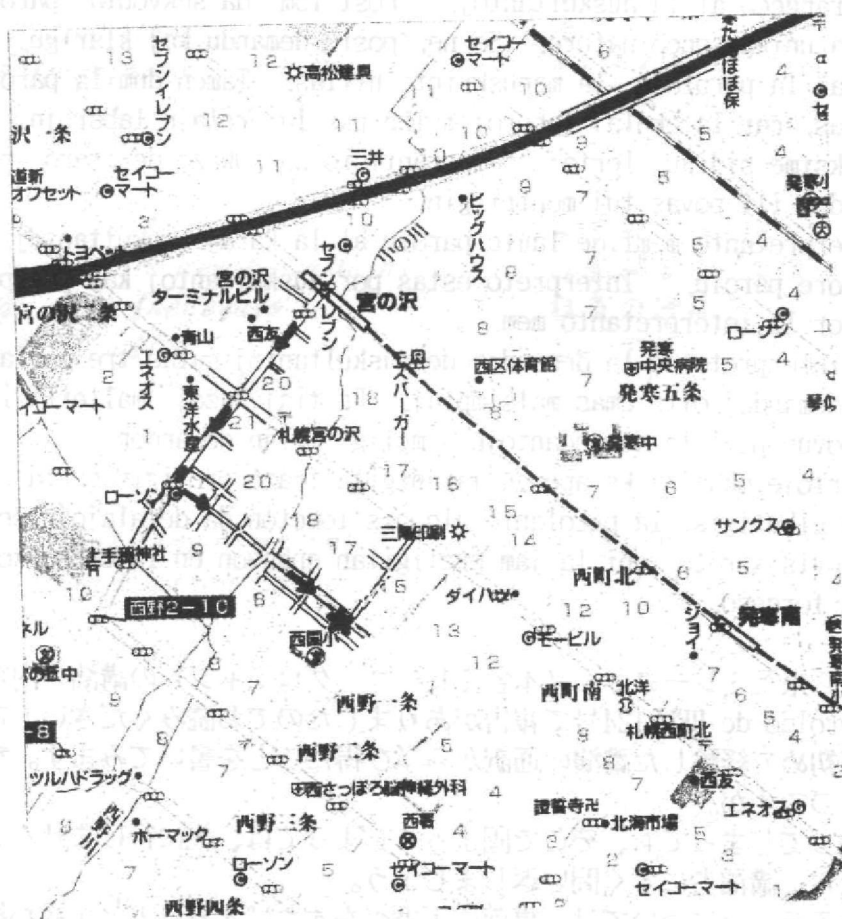
059-0003登別市千歳町6丁目35-1

Tel.: 0143-85-3024

E-mail: kamelio@gray.plala.or.jp

郵便振替口座：02700-6-17075（北海道エスペラント連盟）

注。日程等詳細については当日開始時点において少々変更がある場合があります。



En Satporo la 21an de februaro, 2009, s-ino Mireille Grosjean (Mirejo) prelegis pri sia lando Svislando. En tiu tago ŝtormis kun neĝo granda. Malgraŭ tio 17 aŭskultantoj (krom la preleganto kaj la interpretantoj) vizitis nian ĉambron. S-ro H, s-ino K kaj mi triope interpretis ŝian prelegon. K kaj mi unuafoje interpretis prelegon de Esperanto en la japanan. Tio donis al mi sperton bonan, memfidon, kaj konscion pri eroj plibonigendaj en mia maniero interpretada.

1. Neniel interrompu kun silento longa. (Mirejo malŝatis tian "paneon".) Ĉe kiu ajn nekompreneco tuj demandu la parolanton.

2. Antaŭa lerno pri la parolota temo utilas. Antaŭa interparolo kun la parolanto utilas. Se la parolanto jam faris la paroladon aliloke, ankaŭ utilas la informoj senditaj de tiea interpretinto.

3. Kiam la parolanto uzas neordinaran esprimon, precipe implicon — eĉ se tio konfuzos la aŭskultantojn — tamen sensange interpretu ĝin kun tiu strangeco al la aŭskultantoj. Post iom da sekvonta parolado klariĝos la unika senco nature. Se ne, poste demandu kaj klarigu.

4. Antaŭ la parolado la manuskripto utilas. Tamen dum la parolado ĝi ne utilas, ĉar la okulaj laboroj malhelpas la oreajn laborojn.

5. Proksime sidigu lertajn esperantistojn. Okaze de eraro en la interpretado, ili povas tuj montri ĝin.

6. Interpretanto memfide laŭte parolu al la karaj aŭskultantoj sed neniam aktore parolu. Interpreto estas por aŭskultantoj kaj por parolanto, ne por la interpretanto mem.

7. La interpreto de la demandoj de aŭskultantoj estas tre malfacila, ĉar iliaj demandoj ofte emas malsimplaj. En tiaj kazoj mallerta interpretanto povus peti la demandantojn simpligi ilian demandon.

8. Plurfoje okazis, ke apenaŭ japanigita frazo pretiĝis en la cerbo kaj apenaŭ elbuŝiĝis, la parolanto aldonis iometon da detalajojn sekve.

Tiam mi devis streĉe teni la jam pretigitan enhavon en la cerbo kontraŭ ĝia disiĝa forgeso.

スイスから来たミレーヨさん(本名ミレーユ-グロジャン)の講演の内容については、Heroldo de HEL 124号で報告がありましたのでお読みください。ここでは、ぼくが初めて経験した講演の通訳から学び得たことを書いてみます。参考になればいいのですが。

1 訳に困ってしまっても、そこで固まってしまっても、先に行けません。わからなかったら、講演者にすぐ問い返しましょう。

2 話されるテーマについては、事前に下調べをすればするほど、余裕が持てま

す。ウィキペディアが役に立ちました。講演者とあらかじめ打ち合わせることは、通訳が楽になる分、話すことがあらかじめ束縛されてしまうきらいもあるので、善し悪しがありますが、事前に講演者と通訳が互いになじんでおくことは、なにはともあれ、円滑化のためにいいことです。また、今回は、すでにミレーヨさんの通訳をした本州の人から、電子メールで、「突飛な例えを使われて困った」などの情報を得ることができたので、その例えが出てきたときに、あせらずにすみしました。

3 そのような突飛な表現が出てきたら、理解できなくても臆すること無く、そのまま訳してしましましょう。聴衆ともども、話の流れの中で意味が自然にわかってきます。はじめは奇妙でも、きっと味を利かせた面白い表現なのです。話が続けても、それでも何のことやら検討もつかなければ、そのときになって初めて、「ちょっと待って、あれは何だったの？」と、まとめて質問しましょう。わかったところで、みんなに説明して笑ってもらいましょう。種明かしを始めからしては、無粋でしょう。

4 原稿をあらかじめよく読みこんでおくことは有益です。しかし、講演の最中には原稿は邪魔なだけでした。耳に集中できないからです。ミレーヨさんが気を使って、話しているところを指差してくれましたが、ぼくは目をつぶってしまいました。

5 そこそこ以上の聴き取りのできる人たちに前列に座ってもらい、まちがえたときには、すぐに言ってほしいと頼んでおきました。「ポケたらツッコミを入れてくれ」と。助けてもらいましたね。

6 自信をもって、はっきりと大きな声で、聴衆の反応をみて話すこと。ただし、余裕ができて、講演者をさしおいて、通訳がええカッコしいをして気取ったしゃべりをしないこと。理想としては講演者の魂に同調するというか、シンクロできたらいいですね。

7 複雑な質疑応答を通訳するのは、さすがに、ぼくの水準では無理で、ベタン氏に一任しました。もしぼくがやるならば、質問する内容を簡潔にしてくださいと、質問者をお願いするでしょうね。それもありがたいと思います。

8 ミレーヨさんの話に句読点が打たれた、よし、どう日本語で料理するかおおまかな形ができたぞ、さあ話すぞ、と日本語訳が口から出かかっているときに、ミレーヨさんが二言三言付け加えることが、たびたびありました。こうなると、それまでの記憶が崩れそうになりましたが、脳みその筋肉をぎゅうっと引き締めがんばりました。テクニックとして考えられるのは、付け加えられる前にかぶせて強引にこっちがしゃべってしまう手や、「待って」と言う手があるかもしれませんが。通訳にも、講演者の時間配分に介入できる立場があるので、その力を目立たず上手に使えれば一流でしょうね。

やってみて面白かったです。またやってみたいですね。

みなさん。いま、いろいろな音声教材があります。また、音読も聴き取りの基礎力の養成に有効です。みなさんも、いずれは通訳なしでもわかるようになり、いずれは通訳をもやれるようになったらいいですね。

Nomo kontraŭ la plej grava gramatiko de Esperanto

「Sapporo Esperanto Societo」は「16条の基本文法」違反

樺山 裕介 KABAYAMA Yūsuke

これから、札幌エスペラント会のエスペラント名 Sapporo Esperanto Societo が、エスペラントで最も大切な「16条の基本文法」の項目に違反しているのだということを、順を追って証明していきます。この名称が誤っていることは、かってかなり前に星田さんが、Heroldo de HELで指摘したことがあります。（他に北海道民ではあるが札幌市民ではない、エスペランティストである私の知人2人も、おおむね同じ意見でした）ここまであからさまに間違った命名の仕方は、数多いエスペラント団体の中でも例が少ないのです。それでも改められるどころか、かえって2008年のSES 総会において、この名称がSES 会員の過半数に支持されるという事態になっています。ここで、誰にも納得してもらえるよう、理詰めで解説していきますので、ぜひお読みいただきたいのです。

このようなことを、ここに私が書くことに、読者のみなさん、特に札幌エスペラント会(SES)の方は、こう思うかもしれません。

SES の問題を、事実上の別団体であるHEL の会誌に書くのは、筋違いではないのか。すでにSES 総会で多数決で決まったことを、また蒸し返して覆そうとするのか。 たかが名前のことに、なぜそこまでこだわるのか。

それに対してはこう答えるつもりです。

本来なら、SES 枠内の手段をとるべきです。しかし全員に向けて理路整然と意見する機会や手段が1年にそうありません。SES の会員の多くは、HEL の会員と重複しており、札幌以外の北海道民のみなさんともども、私のこれから書く検証に目を通してもらうことのほうが、筋目より大切だと判断しました。学習効果もあります。2008年のSES 総会の時点では、なぜ、この名前がまちがっているのか、ほとんどの人はわかっておらず、私もうまく説明できませんでした。ひとつには、私自身が中途半端にしか理解していなかったからです。十分に理解していないうちの決定で良かったはずがありません。以下の証明と、他団体の例を読んでから、改めて考えて直していただきたいのです。赤い信号はみんなでわたれば怖くないと多数が言っても渡ってはいけません。私たちは言語活動をしているのです。エスペラント団体がエスペラントをないがしろにした看板かかげて、どうするのですか？ 野球チームや音楽サークル、よさこいソーランのチームの名前が、ありえないA 語であろうと、ユニークすぎるB 語であろうと、勘違いされたC 方言であろうと放送禁止用語D であろうと、野球や音楽の世界、祭りの本質に関わりありません。しかし私たちは違うはず。やっていることの本

質に関わる問題です。また、会話、文通ではとにかくコミュニケーションをとることが肝心で、まちがいをあまり恐れないほうが良いことがあります。それと公の団体名はちがいます。

それでは、解説を始めます。まず「札幌エスペラント会」とは「札幌という場所にあるエスペラントについての会」の略であって、あくまで「会」のことを言いたいのであり、「会」が主、「札幌」「エスペラント」は、「どんな会」かという二次的な説明（修飾）であり、決して、「札幌」「エスペラント」は「会」と対等な名詞ではないですよ。それをまず頭に入れてください。

さて、ご存知の方が多いと思いますが、「16条の基本文法」は、1905年のフランス、ブローニュ市で行われた第1回世界大会で取り決めた、変えてはいけない「エスペラントの基礎」の心臓部分です。つまり、これから私が書くことは、表現の「伝統」がどうこうではなく、「最低限の約束事」「原則」の話であることをわかってください。

問題は第2条です。

第2条「名詞はoで終わる。（中略）格は、主格と対格の2つだけが存在する。後者は、主格から語尾のnを付け加えることで、導かれる。そのほかの格は、前置詞の助けを得て表される。（属格はde、与格はal、奪格はper、および意味によりその他の前置詞）」

この「主格」(nominativo)ということばが明記されていることが、ここからの最も重要なカギになるので、しっかり見ておいてください。

第3条と第11条も頭に入れておいてください。

第3条「形容詞はaで終わる。（後略）」

第11条「複合語は単語の単純な組み合わせで形成される」
名詞を修飾する専門のことばが、形容詞ですね。

では、oで終わる「名詞」とは何でしょう。「もの」「ものに相当する何か」ですね。「格」(kazo)の定義は「名詞が文の中でどのような関係を持つかを表す標識」です。oで終わって、nも、何の前置詞も付かなければ、主格ですね。主格は「何々」であって「何々の」ではありません。何の修飾もできません。主格とは、動詞の主語であるか、または主語に対する補語であることです。「熊は動物だ」のなかで「熊」「動物」が、それぞれそうです。

つまり、第2条はこういう意味です。oで終わるそのまま（主格）は、そのままなので、関係を持たせたければ、主格、対格以外の「格」にするしかなく、（そのために色々な格に応じた前置詞が用意されているのですから）前置詞と組み合わせるしかない、ということです。もっと完結に言うと、「名詞(-o)は前置詞なしでは他の名詞(-o)と関係が持てない」ことを「第2条」は言っているのです。前置詞のない名詞(-o)「主格/対格」は動詞(-is, -as, -os, -us, -u, -i)

としか関係しないというのが、「主格」「対格」のそもそもの名前の定義ですから。de などの前置詞を挟むか、語尾をa にして形容詞にする などしないかぎり、Sapporo はSapporo で完結しており、次の何かにつなげることができません。後述しますが、そこが英語とちがうところですよ。

たとえば、Societo por Esperanto en Sapporo 略してSES。名詞だけを使う場合、こういう形が理にかなっています。

さて、そこで、前置詞を入れなくて、Sapporo Esperanto Societo と書いて「札幌の、エスペラントの、会」という意味だと言い張ったらどうなるか、第2条にしたがって検証してみましょう。SES にお客さんが来たとします。そこで仮にSapporo Esperanto Societo akceptis gaston. という文を作ってみて、第2条を厳密に当てはめると、どういう意味になるかたどってみます。第2条により、Sapporo もEsperanto もSocieto も、前置詞がなくて、n も付かないので、主格になります。この場合、補語が存在しない構文なので、主格であるということは、すべて動詞に係る主語であるということになります。3つすべて主格、すなわち3つすべて主語ですので、Sapporo akceptis gaston でありEsperanto akceptis gaston でありSocieto akceptis gaston であることになります。変なことになりました。しかしこれを「違う」というならば、n も前置詞も付かない名詞は主格だという、第2条そのものを否定することになります。

逆に「札幌の、エスペラントの、会」という意味から出発して、Sapporo もEsperanto も、主格ではなく、akceptisという動詞に係るのではなく、Societo という名詞に係ると強弁するなら、もはや、Sapporo もEsperanto も名詞ではなく、「名詞を修飾する品詞」すなわち「形容詞」であることになります。すると形容詞をo で終わらせていることになり、今度は第3条違反です。ここで、名詞3連続ではなく、前のふたつが形容詞であることを素直に認めて、第3条に従えば、Sapporo Esperanta Societo となって「16条の基本文法」に適合します。

では、Sapporo-Esperanto-Societo であっても、第2条に違反するのではないのでしょうか。棒をはさんでつないだところで、主格名詞は名詞を修飾できないのですから。そう考えて、当時の私は困ってしまいました。

この問題がパッと解決したのが、最近、小西岳さんの「文法の散歩道」を久しぶりに再読したときでした。（だから1年以上たった今になって私はこの文を書いています。）この本によると、この棒はdividstreko です。kunig 「つなげる」ではなく、divid 「分ける」であることに注目してください。「合成語の構成をわかりやすくするために用いる： vaporŝip-asocio; sen-tema parolo (sentema infano と比較せよ)」 「品詞語尾を保存して作られた合成語の区切りに用いる： Universala Esperanto-Asocio; membro-abonanto」と書いてありました。語根をつなげたものの、わかりにくくなった単語をわかりやすくするため

に、要素を分けてみせるのが本来の使い方でした。この「棒」は、複数の単語をつなぐものではなく、一つの単語の中身を分けて見せるものだったのです。Sapporo Esperanto Societo の二つある語間の空白には、ない役割です。

本来の形 *Universala Esperantoasocio* をわかりやすくしたのが *Universala Esperanto-Asocio* (世界エスペラント協会) であり、本来の形 *Japana Esperantoinstituto* をわかりやすくしたのが、*Japana Esperanto-Instituto* (日本エスペラント学会) でした。いずれも、棒の入らない読みにくい形の方が本来の形で、棒を入れた形と同値です。

Sapporo Esperanto Societo だと、札幌、エスペラント、会、と別々の3つの単語が統合されないまま並んでいるだけですが、第11条「複合語は単語の単純な組み合わせで形成される(主要単語がおわりにおかれる)。文法語尾もまた独立の単語のようにみなされる。」を用いて *Sapporoesperantosocieto* にし、これを、もう少し単語の構成要素がわかりやすいように表現を加えたのが、*Sapporo-Esperanto-Societo* です。これは、3個の単語ではなく、あくまで全体で一つの単語です。これなら正解です。「札幌エスペラント会」という日本語も、一つの単語ですね。「札幌 エスペラント 会」ではないですよ。比較してみてください。

私たちのまわりには、英語があふれています。Hokkaido University, Sapporo Station, English Conversation Club, それでいくと、Sapporo Esperanto Society . . .

英語につられてしまったのですが、英語は、ケルト人の住んでいたブリテン島にアングル人やサクソン人がなだれこみ、さらにノルマン人がなだれこみ、近代の始まりにおいても、大陸からユグノーと呼ばれる新教徒が大量になだれこむという、民族、言語の混交によって、文法が必要以上に単純化されたしまったピジン語(混交語)です。規則(手がかり)を入れないでにおいて、ものの名前を並べておいて、単語と単語の関係が何なのかは無原則、受け取る方で空気を読んで勝手に解釈しろ、という言語です。エスペラントは、この不条理なピジン語とは無縁です。エスペラントがピジン語に引きずられてはいけません。安直な分、別のところに非合理性のしわよせが来ます。エスペラントにはエスペラントのルールがあります。最低限でもルールはルールです。少なくとも「16条の基本文法」と英語式とは相容れないのです。英語には「16条の基本文法」に相当するものがないのですから当然のことです。

「16条の基本文法」の2、3、11条から、以上の論理の必然によって導かれた結論を簡単にまとめると、「o で終わる単語は形容詞ではなく名詞である以上、合体させることなく、前置詞も使わず、英語のようにそのまま並べることはできない」ということです。もしも、それが通用するなら、*Japanio danco kanto*

vesto plaĉas al mi. などというヒドイ文もありえることになってしまいます。

2007年エスペラント運動年鑑から、日本の会の名前をいくつか、記載通りに列挙してみます。比べてみてください。Esperanto をE と略します。

Sapporo E Societo, Tomakomai-E-Societo(仮称), La Ihatovaj E-istoj, E-Klubo de Hukusima, Gunma-E-Societo, E-Rondo de Musaŝino Tokorozaŭa, Tokia E-Klubo, E-Rondo de Sinzyuku, Jokohama E-Rondo, E-Societo de Kawasaki, E-Societo en Numazu, Nagaja E-Societo, Nagoja E-Centro, Kioto-E-Societo, Osaka E-Societo, Japana E-ista Ligo Fervojista, Japana Asocio de Blindaj E-istoj, Hokkajda Esperanto-Ligo
PIV に掲載されている、名古屋のエスペラント名はNagojoで、Nagojaは、ちょうどいいことに、その形容詞形です。Osako-Osaka も同様です。

外国の例です。

E-Ligo por Norda Ameriko, Argentina E-Ligo, Itala E-Federacio, Zimbabva E-Instituto, Urugvaja E-Societo, Svisa E-Societo(略称SES!), Tajvana E-ista Asocio, Rusia E-ista Unio, E-Asocio de Finnlando
語尾a や、「-」(dividstreketo) やde, en, porなどを駆使している正統的な「団体名」は、単にまわりの真似をしたのではなく、最初の約束事から導かれるちゃんとした理由があって、それを省いていないのです。

固有名詞に正しさはなくて当然という意味のことを豪語した人がいましたが、大多数の団体名はこのように原則を守っていて何の不都合もなく、矛盾もありません。(固有名詞をその他の名詞と切り離して特別扱いする功罪については、いつか、別に稿を改めて論じたいと思っています。)



Aldono de la Redaktanto/編集追記 (HOŠIDA Acuŝi)

この問題は、二十年前の機関誌 Leontodo の時代から まつばきくのみ、星田 (k.a. ?) によって何度か論じられましたが、人は忘れやすいもの、覚えている方はもうないのでしょうか。

樺山さんの指摘のように エスペラントの日本方言による団体名称は昔は大部分そうだったようですが、このごろはほとんど見ません。その時その時の論議によって、関西エスペラント連盟 の場合 Kansai Ligo de Esperanto-Grupoj は KANSAJA LIGO de ESPERANTO-GRUPOJ に、北海道エスペラント連盟 の場合 Hokkaido Esperanto-Ligo から Hokkajda Esperanto-Ligo に、と エスペラントの基礎 (16条文法) による形に変わっています。

*ESPERANTO sub la suda kruco; oficiala organo de la aŭstralia kaj nov-zelanda esperanto-asocioj, volumo 16[6]*numero 96* nov.-dec. 2008, A5X 24頁の内英文は合計6頁半、あと17頁半はエスペラント文。上質紙、カラー写真多数。AEA(Aŭstralia Esp.-Asocio) の通信講座、1月の somerkurso の講師紹介その他。

*センター通信：第257号，2009年1月20日発行，名古屋エスペラントセンター、A4 X6頁のうちエスペラント文2頁、電子配信。巻頭には2008年9月センターを訪問した Esperanto-Civitoの Marie-France Conde Rey さんの歓迎会の写真と記事。このCivitoは、国土はないが、憲法、議会、裁判所をもつ(仮想の?) 国で、国旗は緑星旗、国歌は La Esperoだそうだ。中垣虎児郎文庫、高杉一郎と長谷川四郎、の記事。08年ザメンホフ祭には以前小樽合宿に来たことがあるBill Mak が出席している。

*SFERILO: SFERO(San Francisco Esperanto Regional Organization)の機関誌、A4X2頁、電子受信。3月例会案内版。議題に NASK (米国の夏期講習) への寄付の件。基金の準備はあったのだが、bursa kolapso(金融破綻)でその4割が失われ講習の実現も危ぶまれている。この基金の担当者はかつて北海道大会にも来たことがある Ellen Eddy, Steĉjo Schwichow の講演は Budhismo por ne-Budhanoj. 1頁トップと2頁の会合案内には英語も混じる。

*センター通信：第258号，2009年3月4日発行，名古屋エスペラントセンター、A4 X8頁、日本語、電子配信。「高杉一郎・小川五郎追想」について伊藤俊彦の文。多くの文化人や、埴谷雄高、宮本顕治との関係も。

*ESPERANTO sub la suda kruco(ESK) vol. 17[1]*numero 97*marto 2009, A5X 32頁の内E. 文29頁。表紙はシドニー(Sidnejo) のオペラハウス。この英語の国の機関誌の編集者が2人ともアングロサクソンでないことが面白い。

昨年から多色刷りカラー写真入り、季刊になったこの機関誌、期待通りに会員募集などに効果を発揮してほしい。十年ほど前(?) 札幌、芦別、苫小牧を廻っていった S-ino Dianne Lukes, 今 Aŭstralia E.-Asocio(AEA)の Prezidantoとして大活躍中!

*Mejlstono: 2009 marto N-ro 212 仙台E会: B5X 4頁中E. 文は2頁弱。北海道へ来る前の S-ino Mirejo Grojan の行動日誌(2月11~14日)。大本の Sanktejo Miyagiで学習指導、18人参加(2月11日)。12日は山形観光、13日は仙台で講演(スイスについて)と歓迎会。参加者18人。もうひとつのE記事は、Himalaja Renkontigo (3月、ネパール)での現地エスペラント運動支援行動(S-ino SAITO 報告)。

*Ponteto/ (Bulteno de Esperanto-Ligo en Regiono Kantoo: 関東エスペラント連盟)/ Marto 2009 N-ro 233; B5 X16頁のうち7頁のエスペラント文は Larmoj de Basyo(T. Sasaki)。芭蕉が涙を流して作った句のテーマは親、姥棄て、捨て子、知人の死、歴史の回顧など。その心には生命への kompato と旧約聖書(La Predikanto)にも出ている無常感—と結ぶ。ザメンホフとハイネ(小林司)の連載開始。

*Novajoj Tamtamas: N-ro 236/ marto 2009, JER(Jokohama Esperanto-Rondo) 発行、A4X4頁、全文E. 1頁に和歌山の日本大会での S-ino Mirejo の写真。membro eseas に YAMAZAKI M. のガン闘病記と Dekalogo(十戒)など歴史的な話。

*La Tamtamo: 第408号，2009年3月号，A4X 6頁，JER，日本文。1頁に入門講習会向けの案内チラシ。投稿欄のヤマサキセイコーの文はNovajoj Tamtamas: N-ro 236 の Kial oni ne subtenas Esperanton? の和訳のようだが内容表現は一致しないところが多いから併せて読むとわかりやすい。

*VOJO SENLIMA; N-ro 172, Marto 2008, 熊本エスペラント会。A4X6頁、

日本語。フランスから Mariaさん、スイスから Mirejo さんを迎えての記事と写真。

*Al Vi Kara; N-ro 97, aprilo 2009, Kioto-Esperanto-Societo, B5X16頁のうちE.文約4頁。表紙、裏表紙はカラー印刷、内容の写真は白黒。特集テーマ「今なぜエスペラント」に会員の意見・コメント。フォーク歌手・野田淳子さんのこと(相川節子)には竹内義一、宝木寛、中村日出男など pioniroj が登場する。AVZ(?) kiel gastigi? (TAHIRA Masako) 連載開始、Pasporta Servo の仕事、失敗談も含めておもしろい。

*Eskalo 第131号(2009年第2号)、2009年4月22日、川崎E.会、B5 X12頁のうちE文2頁弱。2月札幌にも来たミレーユさんに記事4頁の中には彼女が宇治の「山宮墓前祭」で話したことも。生誕150年にあたって対訳「拾い読みザメンホフ」が連載中。

*La Movado; 関西エスペラント連盟 (KLEG) 発行、N-ro 698 aprilo 2009, B5 X16頁のうちE.文4頁。巻頭文は6月の第57回関西E大会の予告: 大会の第1の柱は私たちの活動を市民に見てもらい、エスペラントの存在と可能性を知ってもらうこととある。同じ6月九州エスペラント大会の記念品は球丸の「ザメンホフ像」の複製。

*受講生通信 第123号, 2009-04-01, 沼津エスペラント会, B5X16頁の内E.文2頁。「催しもの」欄に6月予定の北海道初夏合宿、10月の北海道大会。乙部町の麓さん、補聴器をかけたのカセット聞き取りの苦勞の手紙。集まって話せる機会ができればいいですね。JEIの94UK旅行団、仙台のエスペラントセミナーオ(5月)のチラシも同封。

*NOVA VOJO : N-ro 450 aprilo 2009 EPA (エスペラント普及会)、A5 X32頁中E文13頁。購読会員\北海道の欄に中島義明/杉谷スズ子/近藤亀寿/加藤美恵/の名がある。

*Novajoj Tamtamas: N-ro 237/aprilo 2009, JER発行、A4X4頁、全文E. 読書会

予定に、6月エロシェンコの La tundra ĝermas, 9月リンスの Utila estas Aliĝo, 12月Lena Karpuninaの Neokazinta amo. membro eseas にS-ro YAMAZAKI Mのガン闘病記連載中。

*La Tamtamo: 第409号, 2009年4月号, A4X 8頁, JER, 日本文。読書会報告は Japana Esero N-ro 4 についてのこまかい感想、批評。

*La Movado; KLEG 発行、N-ro 699, majo 2009, B5X16頁のうちE.文4頁。巻頭文は国際女性デーにあたっての広島からの訴えに対する69ヶ国271通の反響(E文)。Kajero Libervola: どちらをとるか:(E文)は化学薬品、放射能の使用による効果と害について。Mikspotoに、Beletra Almanako N-ro 4に出た窪田倫子さんの作品のこと。

*NOVA VOJO : N-ro 451 majo 2009 EPA、A5 X32頁中E文6頁。Ges-roj (Erika kaj Roman) DOBRZYNSKIの旅行記が日・E文で7頁。“Korsaro か Piratoか”は今ソマリア沖などで注目される「海賊」について16世紀のイギリスなどヨーロッパ諸国の公認海賊の時代からの歴史。巻頭言などに来年アジア大会予定のモンゴルの運動記事。

*Novajoj Tamtamas: N-ro 238/ majo 2009, JER発行、A4X4頁、全文E. ハマロンドの行事予告、報告と、esas hamarondanoに Militarisma knabo (KOYAMA Takesi) は軍国少年時代の思いで

*La Tamtamo: 第410号, 2009年5月号, A4X 6頁, JER, 日本文。「報告」にハマロンダ・ベスペーロでのアレクサンドラ綿貫の講話、「投稿」にヤマサキ セイコーの「キ」のこと、Vのこと——日本語表記と発音の問題。

*La Movado; KLEG 発行、N-ro 700, junio 2009, B5X16頁のうちEsp.文4頁。700号記念のカラー印刷、記念の特集は「ザメンホフと私」。14人の執筆者の中に北海道から川合さん。広島E会の岡本三夫さん、世界連邦市民講座で講演、との記事。二十年ほど前までSES会長だった故吉原正八郎さんは熱心な世界連邦運動家だった。

SAKAŠITA Masajuki/坂下正幸

Jen malofta informo el orienta parto de Hokkajdo. Samideano SAKAŠITA el urbeto Teŝikaga rakontas pri sia urbo kaj Lago Masuu. Lastatempe en Ĉinio estas produktita filmo, kies scenejoj estas turismaj lokoj de orienta Hokkajdo. Oni atendas, ke ankaŭ el Ĉinio multiĝos turistoj pro tio. — La red.

2007年6月に弟子屈町民となって、2回目の冬を迎えました。弟子屈町（てしかがちょう）は、北海道の人なら読めると思いますが、初めてこの表記を見た人はなかなか読めないと思います。語源はアイヌ語で、「テシ・カ・カ」“岩盤が川を横断して梁のような姿をしているところ”からだそうです。弟子屈町の中心部には屈斜路湖を源流とする釧路川が流れており、この川を中心に昔から人々が生活を営んでいたようです。

ここは、阿寒国立公園を構成する地域の一つであり、日本最大のカルデラ湖である屈斜路湖や透明度で名高い摩周湖、今も白煙をたなびかせる硫黄山などがあります。また、温泉保養地でもあり、川湯温泉や摩周温泉では、かつて、多くの湯治客などで大変な賑わいがあったそうです。残念ながら今はその賑わいは見られず、営業を中止した旅館やホテル、またシャッターを閉じた商店も珍しくない状況です。勿論、今でも湯量は豊富であり、昔ほどではなくとも、観光客も訪れている保養観光地であることは確かです。

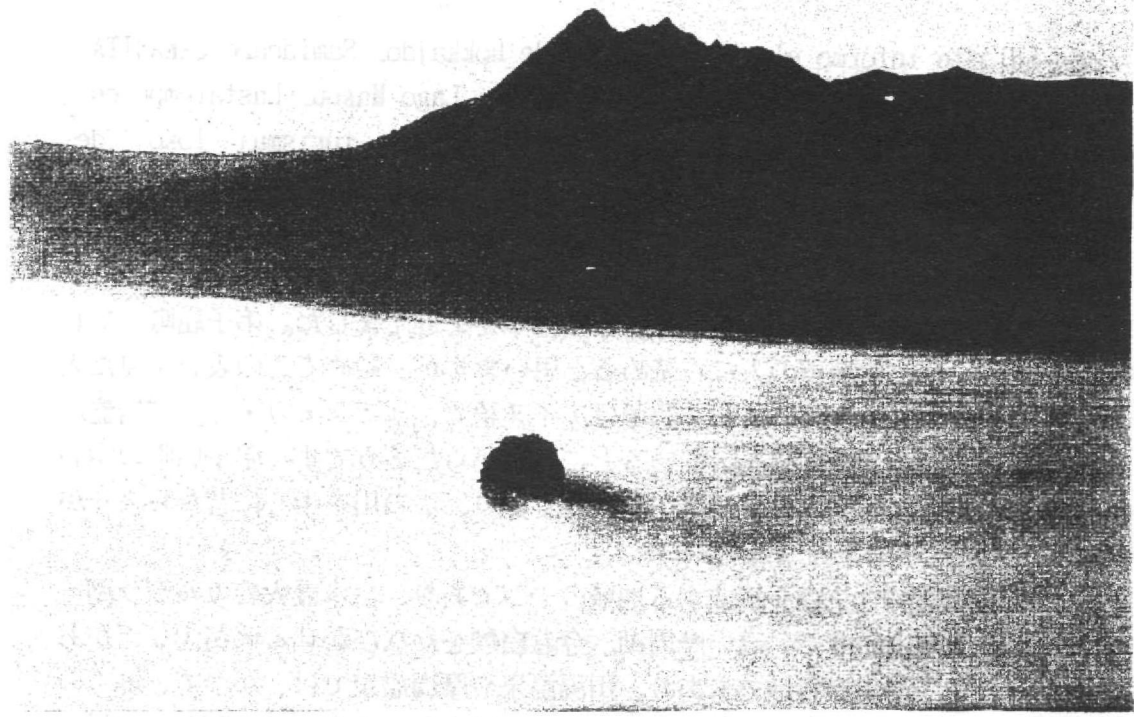
ところで、摩周湖については、どの様なイメージがあるのでしょうか。なかなか姿を見せない神秘的の湖というところでしょうか。布施明が歌った「霧の摩周湖」のイメージが定着しているのかもしれませんが。さて、下の画像を見て下さい。

(次頁)

一般的に「霧の摩周湖」といえば、辺り一帯が霧で覆われ、周囲がよく見えない状況を思い浮かべると思います。ところが本当の「霧の摩周湖」というのは、この画像のように湖面のみが霧に覆われている状態を指すのだそうです。この画像には、湖面は霧で見えないけれども辺り一帯はすっきりと見えている景色が写し出されています。この様な状態になるのは、どうも朝方に多いようです。因みに、この画像の撮影日時も、2008年6月7日6時26分です。これは、摩周湖ホームページのライブカメラからダウンロードしました。（*）

(<http://www.masyuko.or.jp/livecam.html>)

このように世間一般で思われていることと、事実が異なることは時々あるよう



です。私は、この「霧の摩周湖」について、弟子屈町に来てから初めて知りました。勿論、自然現象なので、このような景色がいつも見られるわけではありません。私自身も直接見たわけではなく、仕事の必要上、ほぼ毎日インターネットでこのホームページの画像を見ていて、偶然、見つけることが出来ました。インターネットでは、誰でも見るすることができますから、興味と関心のある方は、どうぞご覧になって下さい。運が良ければ、本当の「霧の摩周湖」を見ることが出来るでしょう。

(*注) ホームページの画像は時々刻々変わっており、編集者がアクセスした時は、”本当の「霧の摩周湖」”は見えなかったので、写真は弟子屈町の観光案内からコピーしました。 — La red.

Komento pri sekva paĝo (La Poemo)
La red.

”Ĉefa vojo al Harmonio”-n verkis CHUNG Hwan-gun en la korea lingvo. Ĝin esperantigis MA Young-tae kaj japanigis GOTOO Joŝiharu(Gotô Yosiharu).

La Poemo

札幌エスベラント会 後藤義治

Ĉefa vojo al Harmonio

*Ni estimas
harmonion
kiel vivon,
kiel veron,
kaj kiel la plej grandan
bonon.*

*Ni estas certaj,
ke tiuj ĉi klopodoj
por harmonio,
surbaze de la kunekzisto,
estas la sola vojo
por savi nin mem,
niajn familiojn,
niajn najbarojn,
nian landon,
kaj la teron kaj la homaron.
Pro tio,
ni neniam haltigu
niajn klopodojn
por la harmonio,
kiel ajn malfacilaj
estas la cirkonstancoj.*

*Ni vivas en la mondo,
kie oni ridante premas
reciproke la manojn por komenci
ĉe kun iamaj invadintoj,
kiuj piedprenis
la tutan landon
henedintan de prapatroj,
kaj kiuj forprenis
la vivojn kaj posedaĵojn*

調和への王道

ひとは尊ぶ
一つになることを
いかに人生を
どれほどまっとうに
何事にも引けを取らず
正しい行いを

ひとは地道に
一つになろうと
全力をかたむける
共生の基盤に立って
孤高の道を
生とし生けるものを救うため
私たちの家族を
あなたたちの隣人を
みんなの国を
そして地球を、人類を
だから
決して手を休めてはいけない
一つになるために
人々は力を尽くせ
いかに過酷であろうとも
それが定めと言うものだ

ひとはこの世に生を受け
どこでも笑顔で抱き合っ
かって侵略に手を貸したもののさえ
取引のために互いに手を結ぶ
先祖代々引き継いだ
この地の果てまでも
かのひとは踏みにじり
彼らは奪い去った
人生、遺産もろともに

de sennombraj sampopolanoj,
Sed kion ni timas,
estas nuna tendenco,
ke multaj homoj,
trio streĉante siajn onelejn
al pli bagatelaj aferoj,
okupiĝas pri senutila disputado,
kontraŭstarado, kaj perfortaado,
kiuj konfuzas kaj malondigas
la mondon.

Se ni rigardas nekte
la severan realon,
kie la silento
de la sennombraj animoj,
kies vivoj estis forĵetitaj
por defendi la patrujon,
kaj la severan realon,
kie vivas silente
la sennombraj familioj
postlasitaj de la mortintoj,
baraktante en
lamentado,
kolenado,
kaj dolonego
dum longa tempo,
eĉ ne parolante,
kion ili devus dini,
ni ne povus ne pripensi
la signifojn
de pacienco,
sinnegado,
kaj indulgo.

La vena vojo al harmonio
malfermiĝos nur tiam,

多勢に無勢の同胞は
恐れるものは何もない
いま社会の風潮は
多数派だ
自前のアテナびんど張り
世にも下賤なことどもに
実のない議論に忙しい
武力に武力の対立は
この世界に
混乱を招き、無秩序を

この厳しい現実を
ひとはまっすぐ目を向ける
祖国を守れど
命にかえて残された
少数家族の魂の
いずれにあるか静寂が
この厳しい現実
なかで寡黙に生きている
数に及ばぬ家族たち
死んだものが残っていた
悲嘆と
怒りに
もがき苦しんで
そして阿鼻叫喚が
やむ事も無く続く
伝えて置かねばなるまいが
語ることもさえままならず
思案の域にも届かない
そんな大事なこともまでも
耐え忍んで
自省が
そして寛容が

調和への王道が
開いてあろうそのときに

kiam ni rigardas ankaŭ nin mem,
eĉ kiam ni kulpigas aliulojn;
kiam la okuloj,
akre senĉantaj
la kulpojn de aliuloj,
rigardu,
ankaŭ kion ili faris bone;
kaj kiam ni humile introspektas,
ĉu ni ne respondecas
pri la malfeliĉoj kaj kulpoj
de niaj najbaroj.

Malamo,
kontraŭstano,
kaj perforto
estas grandaj baroj
al harmonio.
Intenalie,
la perforto
vundas nin mem kaj aliajn;
ĝi estas frenezajo
pli ol sufiĉa
por forbruligi la mondon;
ĝi estas vojo,
kiu kondukas al la fino
de la mondo;
ĝi estas komuna malamiko
aganta kontraŭ libero,
kontraŭ paco,
kontraŭ vivo;
ĝi estas la plej granda tasko,
kiun la homaro devas venki.

Ni turnu nin al la suno,
kiu eterne brilas
tra la senlima tempo,

ひとは我が身を振り返る
他人の罪を問う
まさにその目は
鏡を探りを入れようと
他人の罪を
見るがいい
彼らにも言い分はあるだろう
そして謙虚に反省する
ひとは責務を果せるだろうか
不幸の数々、多くの罪に
われわれの隣人の

敵
対立
そして暴力
一つになるためには
大きな障害だ
どうわけ
軍事力に頼るなら
非戦闘員までも傷つける
狂気の沙汰だ
度がすぎる
この世を焦土とするために
それも道だが
終末へとまっしぐら
この世の
共通の敵は
自由に対し
平和に対し
命に対し挑戦だ
人々が超えねばならぬ
最も大きな仕事でないか

果てしない時を貫いて
とわに光を放つ
太陽に向かって立ちなさい

kaj ni malfermu pie
nian koron,
kun korpoj kaj mensoj
lavitaj en lumo de vivo
granda,
bnila,
varma
kaj grandanima,
kaj ni forskuu
de niaj koroj
la malamon kaj **han**,
kaj ni malfermu,
pon hodiaŭ kaj morgaŭ,
kiuj estas pli gravaj
ol pasintaj tagoj,
la novan eraon
de harmonio,
bazita sur memkritiko,
pardono,
kaj solidaneco.

そして神に膝まづき
自ら心を開きなさい
心身ともに
命の光に湯浴みして
偉大な
輝ける
熱る
そして寛容に
吾が心の底から
敵愾心をそして恨を
振り払おう
さあ、開こうではないか
今、明日のために
過ぎ去った日々のもよりも
さらに大切な
調和への王道を
新しい世紀を
しっかりと我が身を省みて
許し合おう
相互の責任を

POSTSKRIBO

朝鮮半島には昔から日本の和歌に似た「時調」がある。王侯貴族から庶民に至るまで広く普及していた。また物語を浪花節のよう
に物悲しくあるいは陽気に謳う「パンソリ」には儒教道徳の呪縛から解き放たれ、面白い芸能を求める素地があった。

これらの伝統文化が醸し出したのだろうか、韓国の詩は世相を唄い、反社会を詠い、男女の愛を高い次元に謡い上げるなどきわめて多彩だ、今回紹介した詩「調和への王道」はチュン・ホワン・グン氏がハングルで書いたものをマ・ヨン・タエさんがエスペラントに訳した。著者は建国大学の修士課程で社会行政学を修める一方、漢詩にも通じ、漢詩の文学選集を翻訳している。訳者は檀国大学エスペラント研究所の副所長である。この詩は北南統一を謡い上げた力作で、韓国で出版されたエスペラントの詩集「Nova Mondo」の五編のうちの一つである。

文中の“恨”は、単なる恨みつらみで無く、長い歴史を通じて常に貧しく生きてきた民衆が挫折した感受性、社会的な抑圧によって閉ざされた情緒が抵抗意識を生み出す形をいう。

[第5回委員会報告] Protokolo de la 5-a Komitato Kunsido

日時：2009年 3月 7日 (土) 13:00 ~15:30

場所：札幌市北区北8条西3丁目 札幌エルプラザ2階 打合せコーナー

出席：阿部、川合、後藤、椿曜子、星田 (記録)

欠席：佐藤不二雄、椿正一、横山、佐藤英治、中田、大山口

議事

*組織：部長欠席：出席者による討議。

ザメンホフの肖像入りポスター (小学生新聞) を会員宅 (玄関、窓など) に出してもらうのはどうか。入手可能性を検討しよう →星田

*会計 (財政)：機関誌発送をクロネコ宅配便にすると、折らずにA4の封筒を使い1通80円。検討する。

*広報 (HP)：部長欠席、出席者による討議。

HELの「よろず」掲示板を活発化するため、協力を期待する。Yahooの検索では「よろず」がトップだが、Googleでは違う。

*メールマガジン：担当者欠席

中等講座 (椿委員担当) が終わり、そのままになっているが、だれが次を続けませんか。海外からの文通希望者の文を出し、自己紹介文の見本として見てもらい、自由に文通してもらうのもおもしろい。

*教育・研究：札幌、苫小牧の例会は従来通り。春の全国講習会、今のところ、北海道だけ予定が出ていない。(のち苫小牧の予定が出た)

*機関誌：3月7日 Heroldo de HEL No.124 印刷発行した。90部。次号は100部にする。作業参加：阿部、川合、樺山、後藤、星田

1頁トップにこの号の見所のPRを入れたらどうか。

*年間計画

・北海道初夏合宿 (Frusomera Kunlogado en Hokkajdo)

昨年使った札幌市西野の柴田内科研修センターで。6月27~28日を予定。外部講師について心当たり交渉している方があり、成り行きを待つ。

・北海道大会：10月3-4日と予定、申し込みは半年前 (4月はじめ) になる。

総会議題に2012年の、日本大会北海道開催が入る。そのための会員増加の努力も欠かせない。大会の一般向け講演は？

・日露関係

外国からの寄稿者は現在ハバロフスクの S-ro Korčmarjov だけ。障害者で経済的困難があり、時々国際返信券を送っていた。近く考慮したい。

*その他：北見市から会合予定の問い合わせあり、事務局長から回答する。

*次回委員会

5月23日(土)13時から 札幌エルプラザ(2階18人用会議コーナー)
なお同日10時から市民活動サポートセンター印刷室で機関誌印刷。

[編集後記/Redaktanto parolas ...]

*この機関誌 Heroldo de HEL は委員会のたびに印刷しているので、ほぼ2ヵ月ごとの不定期発行になっています。原稿歓迎(エスペラントまたは日本語)。メルマガ、ホームページへの記事も募集します。題材は何でもよいので、積極的なご参加をお待ちしています。今までに出た記事についての感想、批評も歓迎。

*札幌北区上篠路の鈴木正子さんからお手紙と寄付(5000円)をいただきました。

- > 「かでる」での集会(2/21、S-ino Mirejoの講演会)には久々なので
- > 出席しようと思っていましたが体調が――、徐脈がひどくなったので
- > ペースメーカー植込み手術して、今は元気になりました。エスに関しては
- > 話せず解らずでしたが、合宿などは楽しかったです。同封の寸志何かに
- > 使ってください。せめてもの私の気持ちです。

鈴木さんはかつて SES-HEL 会員、1967年小樽、1969年函館の北海道大会に旧姓(嶺正子)で参加されていました。

*Kiel migras S-ino Mirejo poste? 日時：2009年4月3日 6:44

saluton el Kanazawa, skribas Mirejo

Bedauriinde en majo (3,4,5) mi estos en Kanado kaj ne plu en Japanio.

Nepre ne forgesu, ke krokodilado estas tempoperdo por la lernado kaj

ekzercado. Elkore salutas Mirejo

*この機関誌は外国にも交換で送っていますのでエスペラント文のコメントもほしい。筆者がつけてないとき、red.が最低限のものをつけています。文学作品の紹介の時も説明が日本語だけだと原作者、翻訳者などが外国人にはまったく不明になるので、よろしく願います。

北海道エスペラント連盟 会費/年

正会員 3000円、購読会員 2000円、家族会員 1000円

会費振込みについてのお願い

会費振込みを郵便局窓口から郵便局ATM機で振込みを変更していただくと、振込手数料が120円が80円になります。会費支払いを、会員が行事参加の時、または役員に直接預けていただくと手数料が0円になります。振込手数料は会計支出になりますので御協力お願いいたします。